令和６年　京都観光総合調査結果【概要】　対象期間：令和６年1月～12月

主要調査結果

○　令和６年は、訪日外国人旅行者数が過去最高となる中、本市の観光消費額、経済波及効果、外国人観光客数※1、宿泊客数及び外国人宿泊客数※2について、過去最高を更新する結果となった。

1 観光消費動向調査

○　観光消費額及び経済波及効果は、いずれも過去最高を記録した令和５年から更に伸び、過去最高を更新

▶観光消費額　**1兆9,075億円**（R5年比＋24.1%（１兆5,366億円）、R元年比＋54.2%（１兆2,367億円）

▶経済波及効果　**2兆　989億円**（R5年比＋23.4%（１兆7,014億円）、R元年比＋54.7%（１兆3,569億円）

2 観光客統計

○　観光客数は、過去最高の平成27年と概ね同水準。外国人観光客数は過去最高を更新
○　宿泊客数及び外国人宿泊客数は、過去最高を更新
○　修学旅行生数は、令和５年比▲約７％となったが、コロナ禍前令和元年比では＋約７％

▶観光客数　**5,606万人**（R5年比＋11.5%（5,028万人）、R元年比＋4.7%（5,352万人）、[参考] H27（過去最高）比▲1.4%（5,684万人））

・内、日本人観光客数　4,518万人（R5年比＋ 4.6%（4,319万人）、R元年比＋ 1.2%（4,466万人））

・内、外国人観光客数※1　1,088万人（R5年比＋53.5%（ 709万人）、R元年比＋22.8%（ 886万人））

▶宿泊客数　**1,630万人**（R5年比＋10.5%（1,475万人）、R元年比＋23.8%（1,317万人））

・内、日本人宿泊客数　809万人（R5年比▲13.8%（ 939万人）、R元年比▲ 13.7%（937万人））

・内、外国人宿泊客数※2　821万人（R5年比＋53.2%（ 536万人）、R元年比＋116.1%（380万人））

▶修学旅行生数　**75万人**（R5年比▲7.4%（81万人）、R元年比＋7.1%（70万人））

※1「訪日外客数」（JNTO）に「訪日外国人の京都府訪問率」（観光庁）を乗じて算出した参考値。
※2 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

主要調査結果【概要】

1 観光消費動向調査 （P.27～）

▶観光消費額、経済波及効果

区分	令和６年	令和５年	令和元年
観光消費額	1兆9,075億円	1兆5,366億円	1兆2,367億円
経済波及効果	2兆　989億円	1兆7,014億円	1兆3,569億円

・観光消費額単価

区分	全体平均	宿泊客平均	日帰り客平均
日本人	23,355円 (23,809円)	69,801円 (63,986円)	13,232円 (12,650円)
外国人	78,346円 (71,661円)	97,338円 (87,208円)	19,831円 (23,726円)

括弧：令和５年の値

2 観光客統計 （P.11～）

▶観光客数

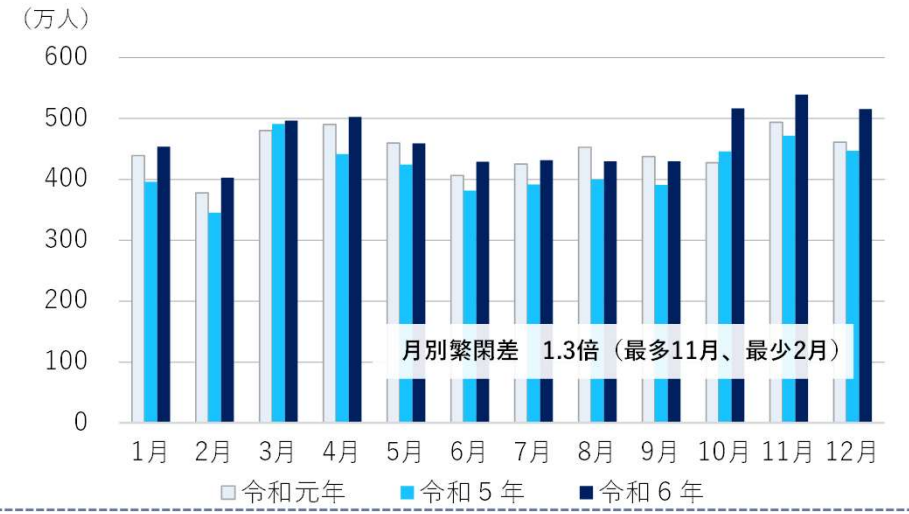
区分	令和６年	令和５年	令和元年
観光客数	5,606万人	5,028万人	5,352万人

（参考）観光客数内訳

区分	令和６年総数	日本人	外国人※1,2
日帰り	3,976万人 (3,553万人)	3,709万人 (3,380万人)	267万人 (173万人)
宿泊	1,630万人 (1,475万人)	809万人 (939万人)	821万人 (536万人)
合計	5,606万人 (5,028万人)	4,518万人 (4,319万人)	1,088万人 (709万人)

括弧：令和５年の値

【図表1】月別観光客数



▶宿泊客数

区分	令和６年	令和５年	令和元年
実人数	1,630万人	1,475万人	1,317万人
延べ人数	2,755万人	2,375万人	2,125万人

・日本人宿泊客数

区分	令和６年	令和５年	令和元年
実人数	809万人	939万人	937万人
延べ人数	941万人	1,223万人	1,296万人

・外国人宿泊客数※2

区分	令和６年	令和５年	令和元年
実人数	821万人	536万人	380万人
延べ人数	1,814万人	1,152万人	829万人

▶修学旅行生数

区分	令和６年	令和５年	令和元年
実人数	75万人	81万人	70万人
延べ人数	118万人	132万人	121万人

※1 「訪日外客数」（JNTO）に「訪日外国人の京都府訪問率」（観光庁）を乗じて算出した参考値。
※2 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

主要調査結果【概要】

3 満足度調査 (P.31～)

▶ 京都観光の総合満足度

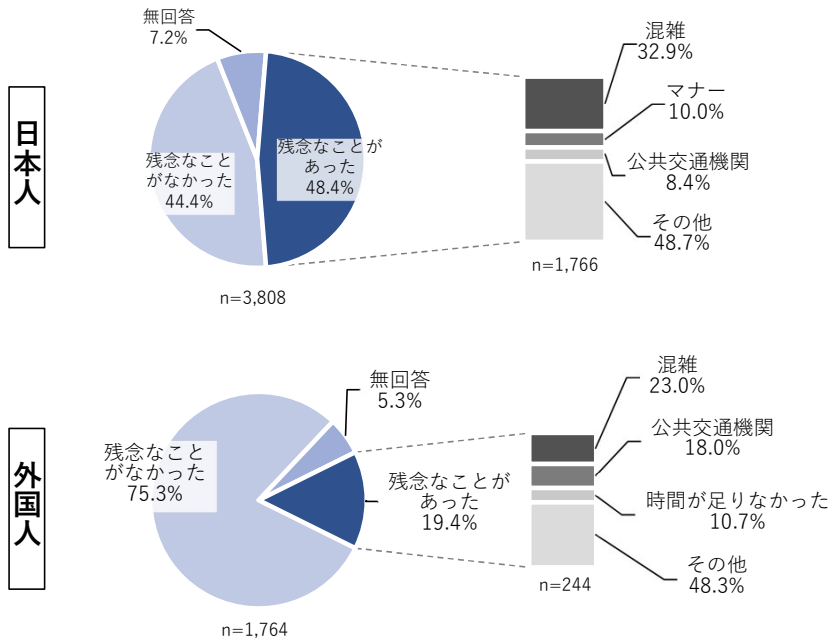
・日本人　94.6%（R5: 93.9%、R1: 91.3%）
【R6 項目ごとの満足度(上位)】
寺院・神社、名所・旧跡 95.6%、自然・風景 91.2%、伝統文化 89.1%

・外国人　97.2%（R5: 98.1%、R1: 97.6%）
【R6 項目ごとの満足度(上位)】
寺院・神社、名所・旧跡 98.2%　自然・風景 98.1%、まちの清潔さ 97.7%

▶ 残念なことがあった観光客の割合

・日本人　48.4%（R5: 43.0%、R1: 44.7%）
・外国人　19.4%（R5: 16.3%、R1: 16.3%）

【図表２】残念に感じた内容（自由記述上位）



右表は、残念なことがあり、その内容（自由記述）を回答された方のうち、意見として多かった上位20項目（外国人は上位10項目）で集計したときの割合

▶ 親しい人に京都観光を勧めたいと思う観光客の割合

・日本人 85.3%（R5: 87.3%、R1: 86.8%）　・外国人 97.4%（R5: 98.0%、R1: 96.6%）

▶ 京都に住みたいと思う観光客の割合（日本人）

30.4%（R5: 33.6%、R1: 32.7%）

4 実態調査※1 (P.43～)

▶ 京都市への訪問回数

・日本人
10回以上　53.0%（R5: 56.5%、R1: 59.1%）
初めて　2.5%（R5: 2.0%、R1: 1.4%）
2~9回　44.5%（R5: 41.5%、R1: 39.5%）

・外国人
2回以上　24.1%（R5: 26.7%、R1: 22.4%）
初めて　75.9%（R5: 73.3%、R1: 75.1%）

▶ 市内での宿泊日数

・日本人
3泊以上　17.6%（R5: 18.6%、R1: 12.5%）
1~2泊　82.4%（R5: 81.4%、R1: 87.5%）

・外国人
3泊以上　68.6%（R5: 65.9%、R1: 60.3%）
1~2泊　18.2%（R5: 20.3%、R1: 19.2%）
※ 市外での宿泊者は13.2%（R6）

▶ 市内でのキャッシュレス決済の利用（外国人）

利用した　92.9%（R5: 89.5%、R1: 64.3%）
利用していない　7.1%（R5: 10.5%、R1: 33.1%）

5 持続可能な観光に対する意向調査※2 (P.75～)

▶ 訪問先の地域の生活を守りながら観光をしたいと考えている観光客の割合

・日本人　62.0%（R5: 56.7%）
・外国人　60.6%（R5: 60.8%）

▶ 訪問先の地域を思いやる行動を取った観光客の割合

・日本人　67.6%（R5: 67.0%）
【R6 具体的な行動内容(自由記述上位)】
ゴミを持ち帰る 45.2%、観光地・地元生活者への配慮 21.8%、マナーを守る 14.9%

・外国人　75.5%（R5: 80.2%）
【R6 具体的な行動内容(自由記述上位)】
観光地・地元生活者への配慮 28.1%、マナーを守る 20.2%、敬意を払う・礼儀正しくする 17.5%

▶ 訪問中に地域の人と交流をした観光客の割合

・日本人　47.2%（R5: 47.1%）
・外国人　59.8%（R5: 63.6%）

※1 令和元年の外国人調査結果は「無回答」を含め百分率を求めているため、合計が100%にならない。　※2 日本人は令和３年から、外国人は令和５年から調査開始

【参考１】令和７年度の主な取組

令和７年度の取組の視点

○ **市民生活と調和・両立し、市民の暮らしの豊かさの向上につながる「持続可能な京都観光」の実現に向けて、**

- **局所的な混雑やマナー問題等の観光課題への対策を全庁を挙げて強化するとともに、「京都観光モラル」の実践の促進や、観光に対する市民理解を促進し、市民生活と観光の調和・両立を図る。**
- **京都観光の質・満足度の向上や、観光客の受入環境整備、修学旅行・MICE誘致の強化を進め、観光・文化・経済の好循環の創出につなげる。**

令和７年度の主な取組

1 市民生活と観光の調和・両立

▶観光課題対策の強化

●観光地の混雑対策
- 時期・時間・場所の３つの分散化【R7充実】(産観)
- ビッグデータ等を活用した混雑状況・観光快適度の見える化(産観)

●道路の混雑対策
- 観光地等交通対策（東山地域・嵐山地域）【R7充実】(都計)
- パークアンドライドの利用促進(都計)
- 清水坂観光駐車場のバス完全予約制(建設)
- 観光バスの路上滞留対策等の強化【R7充実】(産観)

●市バスの混雑対策
- 「観光特急バス」の更なる利用促進【R7充実】(交通)
- 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散(交通)
- 市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実(交通)
- 市バスのリアルタイム運行情報の発信【R7新規】(交通)

●手ぶら観光の推進
- 手ぶら観光の推進の強化【R7充実】(産観)

●京都駅一極集中の緩和
- 交通混雑緩和に向けた情報発信等の強化【R7充実】(都計)
- 京都駅新橋上駅舎・自由通路整備事業、京都駅発着の特急「はるか」の山科駅延伸(JR西)、三条京阪駅周辺における拠点性向上(都計 等)

●マナー啓発
- 観光マナーの啓発(産観)
- 観光地等における散乱ごみ対策【R7充実】(環境)

▶ 京都観光モラルの普及・実践の促進
- 観光客による京都観光モラル宣言の促進【R7新規】(産観)

▶ 観光に対する市民理解の促進
- 観光効果の発信や、事業者による地域貢献の更なる促進、市民が京都の魅力により多く触れる機会づくり(産観)
- 市バス等の「市民優先価格」の実現【R7継続】(交通)

2 京都観光の質・満足度の向上等

▶ 京都観光の質・満足度の向上
- 「とっておきの京都」エリアのプロモーション強化【R7充実】(再掲)(産観)
- 府市連携による周遊観光の更なる促進【R7充実】(再掲)(産観)
- 文化芸術をはじめ京都の多彩な魅力を活かした朝・夜観光等コンテンツの造成【R7充実】(再掲)(産観)
- 「食の京都」の推進【R7充実】(再掲)(産観)
- 高付加価値な文化観光の推進(産観)
- 万博に係る誘客等の推進(産観)

▶ 観光客の受入環境整備
- 観光関連業界の魅力発信等による担い手確保等の支援(産観)
- 名所説明立札（駒札）充実整備(産観)
- 民泊施設の適正な運営の確保(保福)
- 市バス・地下鉄におけるキャッシュレス化の更なる推進【R7新規】(交通)

▶ 修学旅行誘致の強化
- 修学旅行生誘致に向けた取組【R7充実】(産観)
- 修学旅行における体験学習の支援【R7充実】(産観)

▶ MICE誘致の強化
- 京都の強みを活かしたMICE誘致強化【R7充実】(産観)

令和８年３月から宿泊税の引き上げを予定。今後、宿泊税の増収を踏まえ、これらの取組のより一層の充実・強化を図る。

【参考２】京都観光総合調査　調査手法【概要】

○　京都市では、「京都観光総合調査」について、昭和33年から65年以上の長きにわたり、内容を充実させながら実施してきた。現在の調査手法は以下のとおり。

○　これに加え、令和３年から新たに「京都観光に関する市民意識調査」、「京都観光事業者実態調査」及び「京都観光従事者実態調査」を実施し、京都観光を取り巻く現状の総合的な把握に努めている。

観光客の定義

観光客とは、観光目的だけでなく、市外在住で通勤、通学以外の目的（ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等）で入洛した人全てを含む

観光客数調査

「観光入込客統計に関する共通基準」（平成21年12月観光庁策定）※に基づく手法により調査し、各月及び総数を推計。

※ 京都市の都市特性を反映させながら全国共通基準にも合致する手法で実施。

全国共通基準	観光地点を訪れた入込客数を基に、観光客へのアンケート調査の結果を活用し推計
本市の手法	京都市域全体を一つの観光地点と見立て、入洛利用交通手段別（鉄道、高速バス、自動車）の入込客数を基に、観光客へのアンケート調査の結果等を活用し推計

宿泊客数、修学旅行生数調査

本市宿泊税データを基に、観光庁から提供される宿泊客数データや京都市内の宿泊施設へのアンケート調査の結果を活用し推計。

消費動向、満足度、実態、持続可能な観光に対する意向調査

無作為に調査対象者を抽出、 郵送回答や面接調査によりアンケートを実施。

区分	調査
調査時期	冬期（2月）、春期（5月）、夏期（8月）、秋期（11月）
調査場所	【日本人】市内の主要な鉄道駅、観光施設等、全12箇所 【外国人】市内の主要な観光施設等、全5箇所
調査項目	性別、年齢、出発地、利用交通機関、日数、目的、動機、市内訪問地、観光消費額、満足度、感想、サステナブルな旅行に対する意向　など
令和6年調査のサンプル数	【日本人】3,808　【外国人】1,764